

(園長室だより) 108周年
令和7年3月19日 第202号

HPのQRコード→



「思い→体験→表現」は、幼児、児童、生徒に一貫する遊び学びの基本！

学びに向かう力



本日、3学期の終業式を行いました。

子供たちは、この1年間で大きく成長しました。その一つが「学びに向かう力」です。幼児教育での育みたい資質・能力は、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力の基礎」「学びに向かう力、人間性等」です。これは小学校、中学校での育みたい資質・能力の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」につながっていきます。

幼稚園教育要領解説には、次のように書かれています。

幼稚園教育が目指しているものは、幼児が一つ一つの活動を効率よく進めるようになることではなく、幼児が自ら周囲に働き掛けてその幼児なりに試行錯誤を繰り返し、自ら発達に必要なものを獲得しようとするようになることである。このような幼児の姿は、いろいろな活動を教師が計画したとおりに、全てを行わせることにより育てられるものではない。幼児が自ら周囲の環境に働き掛けて様々な活動を生み出し、それが幼児の意識や必要感、あるいは興味などによって連続性を保ちながら展開されることを通して育てられていくものである。(下線部分は筆者)

つまり、幼児教育で目指している姿は、幼児が主体的に遊ぶことを通して、様々なことを獲得していく姿であり、「学びに向かう力」が土台になっていると考えます。この「学びに向かう力」が発揮されている姿は、遊びの中で随所に見られました。

例えば、年少のもも組さんは、どろんこ遊びや雪遊びなどにも積極的に遊んでいました。また、アゲハチョウの幼虫の飼育を通して、幼虫の気持ちになってどんな食べ物がいいのか考えたり、成虫になったアゲハチョウをどうするのかみんなで考えたりしました。そして、逃がす場所を決め、さよならをしていました。

年中のうめ組さんは、「はたらく細胞」ごっこが好きで、園の中で遊ぶだけでなく、お家に帰っても「はたらく細胞」の白血球の武器を作ってきて、また、それを使って園でさらに遊びを工夫するということが繰り返されていました。

年長のまつ組さんは、一人一人が研究員になって、興味や関心のあることをテーマに様々なことを試行錯誤しながら挑戦し続けていました。終業式間近な頃、うどんの作り方をマスターしたうどん研究所の所長(子供)が、実際にゆでて食べてみたいという思いをみんなに話しました。みんなは、実現させるために、食べるための手順や準備を話し合いました。ある子は、休日に図書館でうどんの作り方を調べ、家で作って食べてみたそうです。その子は、当日は研究所の力強い助手としてはたらきました。

「学びに向かう力」は園の中だけやその時、その場だけで終わるものではなく、子供たちの生活の中で続いていきます。高田幼稚園では、今後も子供たちが主体的に遊ぶことを大切にして、「学びに向かう力」を育てていきます。

子供たちは、1年間で心も体も随分成長しました。ご支援ご協力をいただいた皆様に御礼申し上げます。